

**平成 25 年度
新たな公共プロジェクト実施報告書（案）**

平成 26 年 3 月
新たな公共プロジェクト事務局

目次

| | |
|---------------------------------------|----|
| I. 新たな公共プロジェクトの実施に当たって | 1 |
| 1. 新たな公共プロジェクトとは | 1 |
| (1) プロジェクト実施の経緯 | 1 |
| (2) 本プロジェクトにおける新たな公共の担い手の創出 | 1 |
| (3) 本プロジェクトにおける新たな取組 | 2 |
| 2. 本年度の重点テーマの選定 | 5 |
| (1) 重点テーマ選定に当たって考慮した視点 | 5 |
| (2) 重点テーマ | 6 |
| II. プロジェクトの実施結果 | 7 |
| 1. 実施プログラム | 7 |
| (1) プログラムの概要 | 7 |
| (2) 年間実施スケジュール | 9 |
| 2. 参加者数・参加者属性 | 9 |
| (1) 参加者数 | 9 |
| (2) 参加者属性 | 12 |
| 3. プロジェクトを通じて生まれた課題解決プロジェクト等 | 13 |
| (1) プロジェクト支援 | 13 |
| (2) プロジェクト登録 | 13 |
| (3) 社会起業アクション・ラーニング講座受講生のプロジェクト | 14 |
| III. プロジェクトの成果 | 15 |
| 1. プロジェクトの評価軸の設定 | 15 |
| 2. プロジェクトの評価 | 15 |
| IV. 今後のプロジェクト実施に向けて | 24 |

1. 新たな公共プロジェクトの実施に当たって

1. 新たな公共プロジェクトとは

(1) プロジェクト実施の経緯

区では平成24年4月に新たな公共の担い手専門家会議（以下「専門家会議」という。）から提出された提言「文京区と新たな公共の担い手との協働の推進～文京区から始まるソーシャルイノベーションに向けて～」の実現に向け、区の実行方針を定めました。この方針に基づき、25年4月から、対話等を通じて地域の多様な主体が関わり合いながら、地域課題の解決を図る担い手を創出していく「新たな公共プロジェクト」（以下「本プロジェクト」という。）の取組を実施し、より豊かな地域社会の実現を図っていくこととしました。

(2) 本プロジェクトにおける新たな公共の担い手の創出

地域課題が複雑かつ多様化する中、行政だけの対応ではニーズを十分満たせないといったケースもあります。また、区としては踏み込みにくい課題といったものもあります。

区では対応できないケースについては、町内会等の地域活動団体やNPOが対応している状況もありますが、町内会に属さない人や積極的に地域と関わりを持たない人もおり、既存の枠組み以外の取組も求められています。

本プロジェクトでは、既存の枠組みを尊重しながらも、「新しい発想」や「新しい手法」で地域課題解決に取り組む、新たな公共の担い手（以下「担い手」という。）の創出に重きを置く取組を実施することとしました。

【担い手創出に当たり重視した視点】

1) 地域の課題解決に貢献があること

担い手が実施するプロジェクトは、その目的・ミッションの中で、区民の地域課題の解決に寄与することが明記されていることを必要としました。

2) 区民による自発的・主体的な取組であること

担い手が実施するプロジェクトは、区民が中心となる自発的・主体的な取組であることを必要としました。

3) 継続的に運営でき、成果を多くの区民に還元できること

担い手が実施するプロジェクトは、継続的に運営することができ、活動の成果をできるだけ多くの区民に還元することを必要としました。

4) 「私益」や「共益」のためではなく、「公益」のための活動を行うこと

担い手が実施するプロジェクトは、「私益」（自分のため、自分のやりたいことの実施）や、「共益」（自分の仲間のためための実施）ではなく、「公益」（多くの区民のための実施）のための活動であることを必要としました。

(3) 本プロジェクトにおける新たな取組

1) 幅広い区民が参加できる仕組みの構築

本プロジェクトにおいては、数少ない特定の卓越した担い手ではなく、一般の区民が主体的に参加できる仕組みをつくることを重視しました。地域活動を実施していくためには、担い手の力だけでは実行できないため、担い手を支える人の存在が必要となってきます。本プロジェクトにおいては、こうした「支える人たちのコミュニティ」の創生にも注力しました。

2) 活動の継続力向上に焦点を当てたプログラム

従来の地域活動支援は、団体が提案したプロジェクトの実行に対して助成金という形で支援を行うものが多く見られます。本プロジェクトでは、提案されたプロジェクトの実施に着目するのではなく、提案されたプロジェクトが支援終了後も継続的に実施されることに着目しています。そのため、そのプロジェクトを継続するための基盤づくりや事業実施の基礎体力をつけることに対して支援を行いました。

3) SNS 等新たなメディアを活用した広報戦略

地方公共団体としては一般的ではない取組として、特設サイトや、SNS（Facebook、Twitter）、メールマガジンの運営等、多様な広報媒体の特性を活かした活用を行うことによって、区民の関心や本プロジェクトの集客効果を高める戦略を採りました。

特に、SNSによる情報発信の際は、「人」に着目して、担い手や参加者の状況をリアルタイムで伝えることに苦心し、多くの区民に「自分ごと」と思ってもらうための工夫をすることによって、従来のHPや区報、掲示板といった「静の情報発信」から、「動の情報発信」に積極的に取り組みました。

4) 全庁的な取組

本プロジェクトは、区民部への協働推進担当課長ポストの新設を始め、協働推進委員会（以下「委員会」という。）及び協働推進委員会担い手創出プロジェクト支援本部（以下「本部」という。）の新設により、全庁を挙げた取組とするための体制整備を行いました。また、組織の新設にとどまらず、各プログラムへの職員の参加や協働推進に関する職員研修の充実等により、提言に示された「組織・風土改革」にも取り組みました。

協働推進委員会名簿

平成 25 年 5 月 17 日現在

| 番号 | 職 | 氏名 | 所属 |
|----|------|-------|-------------|
| 1 | 委員長 | 田中 芳夫 | 区民部長 |
| 2 | 副委員長 | 境野 詩峰 | 区民部協働推進担当課長 |
| 3 | 委員 | 久住 智治 | 企画政策部企画課長 |

| | | | |
|----|---|-------|-------------------|
| 4 | 〃 | 林 顕一 | 総務部総務課長 |
| 5 | 〃 | 石嶋 大介 | 区民部区民課長 |
| 6 | 〃 | 山崎 克己 | アカデミー推進部アカデミー推進課長 |
| 7 | 〃 | 内野 陽 | 福祉部福祉政策課長 |
| 8 | 〃 | 野田 康夫 | 男女協働子育て支援部子育て支援課長 |
| 9 | 〃 | 小澤 信雄 | 保健衛生部生活衛生課長 |
| 10 | 〃 | 高橋 征博 | 都市計画部計画調整課長 |
| 11 | 〃 | 遠藤 道雄 | 土木部管理課長 |
| 12 | 〃 | 小野 光幸 | 資源環境部環境政策課長 |
| 13 | 〃 | 廣瀬 誠一 | 施設管理部施設管理課長（事務） |
| 14 | 〃 | 椎名 裕治 | 教育推進部庶務課長 |

協働推進委員会担い手創出プロジェクト支援本部名簿

平成 25 年 11 月 15 日現在

| 番号 | 職 | 氏名 | 種別 | 備考 |
|----|-----|-------|-----|--|
| 1 | 本部長 | 田中 芳夫 | 区職員 | 区民部長 |
| 2 | 本部員 | 安藤 哲也 | 識見者 | NPO 法人タイガーマスク基金代表理事 |
| 3 | 〃 | 井上 英之 | 識見者 | クレアumont大学院大学 ピーター・ドラッカー経営大学院客員研究員 日本財団国際フェロー |
| 4 | 〃 | 各務 茂夫 | 識見者 | 東京大学教授 産学連携本部イノベーション推進部長 |
| 5 | 〃 | 菊地 端夫 | 識見者 | 明治大学経営学部公共経営学科准教授 |
| 6 | 〃 | 丁 寧 | 識見者 | 日中の未来を創る会共同代表 SVP 東京パートナー |
| 7 | 〃 | 石嶋 大介 | 区職員 | 区民部区民課長 |
| 8 | 〃 | 境野 詩峰 | 区職員 | 区民部協働推進担当課長 |

(各種別 50 音順)

5) 専門家など多彩な協力者

本プロジェクトでは、専門家会議委員に引き続き本部員として全体の進行管理に協力をいただくとともに、プロジェクトの委託事業者も「パートナー事業者」と位置付け、仕様書に基づく単純な委託ではなく、事業の企画と実施を協働して運営する体制をとりました。

また、各地で先進的な取組をされている方や、様々な分野の専門家が、各プログラム等のゲストやメンターになって、本プロジェクトに協力いただけたことにより、多様な視点を持った事業展開が可能となりました。

【協力者リスト 37人】

(敬称略、順不同)

| プログラム名 | 協力者名 (主な肩書き) |
|--|--|
| キックオフイベント 「Yes! で文京の未来を語ろう!」 ゲスト | 今村 亮(NPO 法人 NPO カタリバ カタリ場事業部事業部長) |
| | 長谷川 大 (NPO 法人 街 ing 本郷代表) |
| | 鈴木 信行 (みのり Café オーナー) |
| 文京ミ・ラ・イ対話 ゲスト | 宮澤 由佳 (NPO 法人子育て支援センターちびっこはうす理事長) |
| | 森松 徳美 (井の頭地域福祉支援センター相談員) |
| | 石井 邦知 (きゅぼらスポーツコミュニティ代表) |
| | 森田 由紀 (NPO 法人 代官山ひまわり代表) |
| 文京区×東京大学 ソーシャルイノベーション公開シンポジウム「社会の変化は、新しい仕事を求めている!」 ゲスト | 影山 知明 (クルミドコーヒー 店主) |
| | ナカムラ ケンタ (日本仕事百貨代表) |
| | 各務 茂夫 (東京大学教授 産学連携本部イノベーション推進部長) |
| | 菅原 岳人 (東京大学 産学連携本部助教) |
| 支援プロジェクト メンター | 杉本 雅明 (LAB+CAFÉ オーナー) |
| | 船木 成記 (博報堂ディレクター、尼崎市顧問) |
| | 村瀬 正尊 (㈱マチヅクリ・ラボラトリー代表取締役) |
| | 北池 智一郎 (㈱タウンキッチン代表取締役) |
| | 坪田 哲司 (合同会社次世代創造 代表社員 地域・社会共創プロデューサー) |
| | 鈴木 敦子 (NPO 法人 ETIC.事務局長) |
| 社会起業アクション・ラーニング講座 メンター | 綱嶋 信一 (大崎周辺まちづくり協議会会長) |
| | 齊藤 充 (合同会社えんたらいふ 代表) |
| | 村瀬 正尊 (㈱マチヅクリ・ラボラトリー代表取締役) (再掲) |
| | 坪田 哲司 (合同会社次世代創造 代表社員 地域・社会共創プロデューサー) (再掲) |
| | 野田 香織 (NPO 法人 ETIC.インキュベーション事業部コーディネーター) |
| | 渡邊 賢太郎 (NPO 法人 ETIC.インキュベーション事業部) |
| | 瀬沼 希望 (NPO 法人 ETIC.チャレンジ・コミュニティ事業部コーディネーター) |
| | 川口 枝里子 (NPO 法人 ETIC.チャレンジ・コミュニティ事業部コーディネーター) |
| | 関根 純 (NPO 法人 ETIC.横浜ブランチャコーディネーター) |
| | 長谷川 奈月 (NPO 法人 ETIC. チャレンジ・コミュニテ |

| | |
|----------------------|---|
| | イ・プロジェクト 事務局) |
| | 昆布山 良則 (公益社団法人長寿社会文化協会 (WAC) 全国コミュニティカフェ・ネットワーク 事務局) |
| | 風間 紗喜 (㈱ラボアンドタウン取締役) |
| | 中島 満香 (プライスウォーターハウスクーパース PPP・インフラ部門) |
| | 山本 龍太郎 (ホワイト&ケース法律事務所 弁護士/NPO 法人ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京 理事) |
| | 藤村 隆 (NPO 法人ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京 事業統括) |
| | 瀬川 将之 (㈱ソサイエタル代表取締役) |
| | 湊上 周平 (㈱タイヒバン監査役) |
| | 北池 智一郎 (㈱タウンキッチン代表取締役) (再掲) |
| | 新井 純子 (ヘルシーカフェのら店主) |
| 社会起業アクション・ラーニング講座 講師 | 岡本 拓也 (NPO 法人ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京代表理事) |
| 文京社会起業フェスタ 2014 ゲスト | 斉藤 保 (㈱イータウン代表取締役 (港南台タウンカフェ代表)) |
| 事務局勉強会 講師 | 加勢 雅善 (NPO 法人 ETIC. インキュベーション事業部/インキュベーション・コーディネーター) |
| | 伊藤 健 (慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科特任助教) |

2. 本年度の重点テーマの選定

(1) 重点テーマ選定に当たって考慮した視点

本プロジェクトの実施に当たり、本年度重点的に区民と協働して地域課題の解決を図りたい重点テーマを選定するため、以下の視点を設定しました。区の各部からは、行政だけでは対応が難しいテーマを中心に推薦が出されました。

【考慮した視点】

- 1) 文京区基本構想の実現に資するもの
- 2) 文京区でニーズのあるテーマであり、既存の枠組みを超えて対応することでより高い効果が期待できるもの (全国的にもニーズのあるテーマであるとなおよい。)
- 3) テーマに対して区民の関心が高く、新たな公共の担い手が事業化のアクションをする際に地域の理解や応援が得られやすいもの
- 4) 新たな公共の担い手が事業化を進める過程 (試行段階、成長段階など) において、文京区の社会資源を有効に活用できるもの
- 5) テーマに対して事業化がイメージしやすく、起業ニーズが考慮されているもの

【各部からの推薦テーマ】

- 1) 安全で安心なまちづくり（総務部）
- 2) 災害時要援護者の安全確保（総務部）
- 3) 商店街の活性化（区民部）
- 4) 文京区公式ゆるキャラブランディング（区民部）
- 5) 地域スポーツ活動の担い手について（アカデミー推進部）
- 6) 介護家族の負担軽減（福祉部）
- 7) 中高生世代の育成について（男女協働子育て支援部）
- 8) 地域コミュニティにおける子育て支援（男女協働子育て支援部）
- 9) 健康づくり（保健衛生部）
- 10) 区内重点地域における喫煙場所の提供（資源環境部）
- 11) 家庭教育力の向上（教育推進部）

(2) 重点テーマ

区の各部からの推薦テーマを踏まえ、委員会において検討し、次の3つを重点テーマに選定しました。

| 重点テーマ |
|--|
| <p>「家庭を支えるご近所力～家族構成の変化に対応するには」</p> <p>単身世帯の増加など家族構成が変化している中で、子育て、教育、介護、健康、防犯、災害対策など身近な課題に対応するには、各家庭による自助だけでなく、ご近所による助け合いなども重要です。</p> <p>単独の家庭では解決することが難しい課題を、「スープの冷めない距離」のご近所が、お互いの選択やプライバシーを尊重しながら、支え合える仕組みをつくります。</p> |
| <p>「スポーツから始まるコミュニティづくり」</p> <p>地域のつながりの弱さが指摘されますが、人のつながりは、何かを一緒に行う、共に努力することから生まれることが多くあります。</p> <p>子どもと大人、子ども同士、大人同士、家族と家族など、スポーツを通じて地域のつながりを生み出す仕組みをつくり、スポーツの担い手の拡充や、区民の健康増進にも貢献します。</p> |
| <p>「まちの資源を活かした地域ブランディング」</p> <p>文京区は歴史あるまちで、エリア毎の特色や文化もあり、豊富な資源が揃っています。これらの資源を効果的に活用し、産業振興等まちの活性化に結び付けていくことも重要です。</p> <p>そこで、地域の歴史、文化、資源を活かした事業や地域活動を生み出すことによって、まちの魅力と可能性を発信し、地域をブランド化します。</p> |

II. プロジェクトの実施結果

1. 実施プログラム

(1) プログラムの概要

| プログラム名 | 概要 |
|---|--|
| キックオフイベント 「Yes！で文京の未来を語ろう！」(5/26) | 本プロジェクトを広く発信するとともに、区民、地域活動団体、NPO等の参加者が対話を通じて交流し、担い手の必要性について意識醸成を図るためのイベントを実施した。 |
| 文京ミ・ラ・イ対話 (7月、9月、1月 計9回実施) | 本年度の重点のテーマについて、区民、地域活動団体、NPO等の地域で活動している方や、対話のテーマに関心のある方が集まり、地域課題の解決の方策を探る対話の場を実施した。 |
| 文京区×東京大学 ソーシャルイノベーション公開シンポジウム 「社会の変化は、新しい仕事を求めている！」(9/13) | 9月から社会起業講座を実施するに当たり、社会起業について区民に広く知ってもらう機会とするための公開シンポジウムを実施した。シンポジウムは、23及び24年度に社会起業家育成アクションラーニング・プログラムを区との共同研究で実施した東京大学産学連携本部との共催により実施した。 |
| 地域活動応援講座 ①「ファシリテーション講座」 (9/26) ②「参加者が満足し、継続するプロジェクト運営のコツ」 (10/10) | これから地域活動を始めたいと考えている人や、すでに活動を始めた人等を対象に、体験型の講座で地域活動の運営スキル等を学びたいと考えている人等を対象に、地域活動応援講座を実施した。 |
| 社会起業アクション・ラーニング講座(10/24～2/27 全7回講座) | 地域課題の解決を継続・発展する事業としていくために、ビジネスとするための手法やプロセスを学ぶとともに、受講者が地域の中で試行やアクションを行いながら実践力を身に付けるための連続講座を実施した。 |
| プロジェクト登録 (7月期・10月期) | 地域課題を解決するためのプロジェクトが固まっている団体を対象に、特設サイトにおける広報や、文京ミ・ラ・イ対話等における区民等との意見交換の機会提供などを通じた事業化支援を実施した。 |
| プロジェクト支援 ①「8月～11月期」 ②「12月～3月期」 | 登録されたプロジェクトの中から、「文京区の地域課題解決への貢献が大きく、事業として自立的、継続的に展開していく可能性が高い」と判断できるプロジェクトを本部で選考し、その事業構築の総合的な支援を実施した。 |

| | |
|--|---|
| <p>文京社会起業フェスタ 2014 「Yes でミ・ラ・イをつくろ う」(2/11)</p> | <p>社会起業アクション・ラーニング講座受講生、プロジェクト登録 団体、プロジェクト支援団体が一堂に会し、プロジェクトの実施 者と地域の人とが出会い、つながれる機会とするためのイベント を実施した。</p> |
| <p>特設サイト、SNS 等による情 報発信および ニューズレターの発行 (5月、8月、12月、3月(予 定))</p> | <p>特設サイトや、SNS (Facebook、Twitter)、メールマガジン、 ニューズレター、ポスターによる多様な広報媒体を活用した広報 戦略を実施した。</p> |
| <p>職員研修 (協働推進関係)</p> | <p>職員の協働推進に対する意識改革を図るため、職務経験別の研修 などを実施した。</p> |

(2) 年間実施スケジュール

| | 主な動き | 協働推進委員会 | 担い手創出支援本部 (プロジェクト登録・プロジェクト支援) | 対話の場 | 社会起業講座 | キックイベント NPO意見交換会 | プラットフォーム (PR関係) | 職員研修 |
|-----|-------------------------------|---------------------------------|--|------------------------------------|--|-----------------------------------|--|--|
| 4月 | 企画・年間計画の策定 | ・第1回委員会 (4/18) | | ・重点テーマ決定 | | | | |
| 5月 | キックオフイベント | ・第2回委員会 (5/13) | ・第1回本部 (5/17) | | | ・キックオフイベント「Yes!で文京の未来を語ろう!」(5/26) | ・ニュースレター5月号発行「始める!」 | |
| 6月 | プロジェクト登録開始 | ・第3回委員会 (6/5) ・第4回委員会 (6/25) | | | | ・区内NPO意見交換会 (6/26) | ・特設サイト ・facebook ・メルマガ ・twitter | ・新任職員研修「協働」 |
| 7月 | 対話の場(第1セッション)開始 | ・第5回委員会 (7/31) | ・プロジェクト登録 (7月期) ・事業化支援ワークショップ(7/28) | ・第1セッション「地域課題を知る」(7/6、7/10、7/19) | | | | |
| 8月 | プロジェクト支援開始 | | ・第2回本部 (8/5) ・支援プロジェクト選考(新規審査) | ・第1クール (8~11月支援) | | | | ・ニュースレター8月号発行「深める」 |
| 9月 | 対話の場(第2セッション)開始 公開シンポジウム開催 | | ・プロジェクト登録説明会(9/18、9/27) | ・第2セッション「解決策を考える」(9/8、9/18、9/20) | ・東京大学共催公開シンポジウム(9/13) ・地域活動応援講座「ファン」 ・セッション講座」(9/26) | | | |
| 10月 | 社会起業アクション・ラーニング講座開始 | ・第6回委員会 (10/31) | ・プロジェクト登録 (10月期) | メンター-MTG、定例MTG、ステークホルダー-MTG等事業構築支援 | ・地域活動応援講座「プロジェクト運営のコツ」(10/10) ・アクション・ラーニング講座第1回(10/24) | | 適宜情報更新・配信 | ・新たな公共の担い手との協働推進研修 ・新任職員研修「協働」 ・NPO等地域団体派遣研修 ・協働研修(応用編) |
| 11月 | | | ・事業化支援ワークショップ(11/8) | | ・第2回講座 (11/7) ・第3回講座 (11/14) ・第4回講座 (11/28) | | | ・協働研修(基礎編) |
| 12月 | プロジェクト支援開始 | | ・第3回本部 (12/9) ・支援プロジェクト選考(新規・継続審査) | ・第1クール ・第2クール (12~3月支援) | ・個別相談会1 (12/5、12/10) ・第5回講座メンター-MTG(12/15) | | ・ニュースレター12月号発行「つながる」 | ・協働研修(基礎編) |
| 1月 | 対話の場(第3セッション)開始 | | | メンター-MTG、定例MTG、ステークホルダー-MTG等事業構築支援 | ・第3セッション「解決策を深める」(1/19、1/22、1/24) | (個別アクション) ・対話の場参加 | | |
| 2月 | 社会起業フェスタ | | | | 社会起業フェスタ(2/11) | | | |
| 3月 | 今年度総括 | ・第7回委員会 (3/19) | ・第4回本部 ・支援プロジェクト選考(継続・終了審査) | | | ・第7回講座 (2/27) | | ・ニュースレター発行3月号 |

2. 参加者数・参加者属性

(1) 参加者数

各プログラムの参加者数は、次ページのとおりです。文京ミ・ラ・イ対話を除き、概ね定員を超える参加があり、延べ参加者数は753人でした。また、ユニーク数(同一人を重複カウントしない数)は293人でした。

図表 参加者数(参加率)等

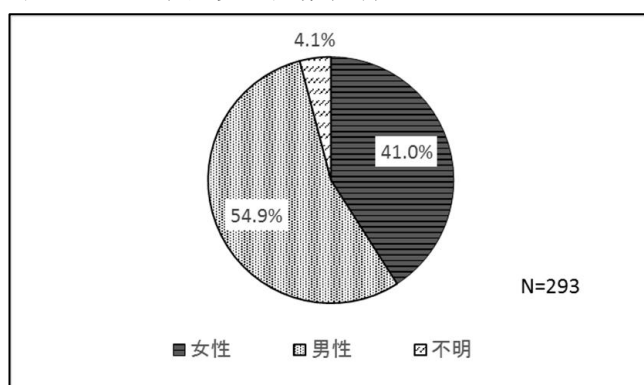
| | | | | | | | | | | | | | 単位:人、% | |
|---------------------------------------|--------|----|---------------------|-------|-----|------|------|-------|------|----|------|------|--------|--|
| イベント名 | 開催日 | 曜日 | 場所 | 定員 | 申込 | 事前申込 | 当日参加 | ファンリ等 | ゲスト等 | 職員 | 区民手伝 | 合計参加 | 参加率 | |
| 対話のイベント Yes!で文京の未来を語ろう | 5月26日 | 日 | スカイホール | 80 | 72 | 57 | 10 | 13 | 3 | - | - | 83 | 104% | |
| 文京ミ・ライ対話 家庭を支えるご近所力 | 7月6日 | 土 | 産業とくらしプラザ | 25 | 35 | 32 | 3 | - | 2 | 7 | - | 44 | 176% | |
| 文京ミ・ライ対話 スポーツから始まるコミュニティづくり | 7月10日 | 水 | シビックセンター5階 区民会議室 | 25 | 33 | 24 | 2 | - | 1 | 3 | - | 30 | 120% | |
| 文京ミ・ライ対話 まちの資源を活かした地域ブランディング | 7月19日 | 金 | シビックホール会議室 | 25 | 36 | 25 | 2 | - | 1 | 2 | - | 30 | 120% | |
| 文京ミ・ライ対話 家庭を支えるご近所力 | 9月8日 | 日 | シビックセンター5階 区民会議室 | 25 | 14 | 13 | 3 | - | - | - | - | 16 | 64% | |
| 文京社会起業講座 公開シンポジウム | 9月13日 | 金 | 東京大学 福武ホール | 100 | 187 | 117 | - | - | 4 | - | 2 | 123 | 123% | |
| プロジェクト登録説明会 | 9月18日 | 水 | シビックホール会議室 | - | 7 | 6 | 2 | - | - | - | - | 8 | - | |
| 文京ミ・ライ対話 スポーツから始まるコミュニティづくり | 9月18日 | 水 | シビックホール会議室 | 25 | 12 | 8 | 1 | - | - | - | - | 9 | 36% | |
| 文京ミ・ライ対話 まちの資源を活かした地域ブランディング | 9月20日 | 金 | シビックホール会議室 | 25 | 26 | 21 | 2 | - | - | - | - | 23 | 92% | |
| 文京社会起業講座(地域活動応援講座) ファシリテーター講座 | 9月26日 | 木 | シビックセンター5階 区民会議室 | 40 | 67 | 45 | 2 | - | - | - | - | 47 | 118% | |
| プロジェクト登録説明会 | 9月27日 | 金 | シビックホール会議室 | - | 10 | 6 | 2 | - | - | - | - | 8 | - | |
| 文京社会起業講座(地域活動応援講座) 継続するプロジェクト運営のコツ | 10月10日 | 木 | シビックセンター5階 区民会議室 | 40 | 72 | 40 | 1 | - | - | - | - | 41 | 103% | |
| | | | | | | | | | | | | | 単位:団体 | |
| イベント名 | 開催日 | 曜日 | 場所 | アンケート | 回収 | 参加希望 | 参加 | | | | | | | |
| NPO意見交換会 | 6月26日 | 水 | 文京区民センター 3A | 356 | 72 | 25 | 20 | - | - | - | - | - | - | |

| | | | | | | | | | | | | | 単位:人、% | |
|------------------------------------|--------|-----|---------------------|----|-----|------|------|-------|------|----|------|------|--------|--|
| イベント名 | 開催日 | 曜日 | 場所 | 定員 | 申込 | 事前申込 | 当日参加 | ファンリ等 | ゲスト等 | 職員 | 区民手伝 | 合計参加 | 参加率 | |
| アクション・ラーニング講座 地域課題解決を事業とする発想と手法 | 10月24日 | 木 | シビックセンター5階 区民会議室 | 20 | 25 | | 19 | | | | | 19 | 95% | |
| アクション・ラーニング講座 プロジェクトの事業計画をつくる | 11月7日 | 木 | シビックセンター5階 区民会議室 | 20 | | | 17 | | | | | 17 | 85% | |
| アクション・ラーニング講座 事業計画の中間発表 | 11月14日 | 木 | シビックセンター5階 区民会議室 | 20 | | | 17 | | | | | 17 | 85% | |
| アクション・ラーニング講座 ステークホルダーミーティング活用法 | 11月28日 | 木 | シビックセンター5階 区民会議室 | 20 | | | 16 | | | | | 16 | 80% | |
| アクション・ラーニング講座 メンター・ミーティング | 12月15日 | 日 | シビックセンター5階 区民会議室 | 20 | | | 13 | | | | | 13 | 65% | |
| 文京ミ・ライ対話 家庭を支えるご近所力 | 1月19日 | 日 | シビックセンター5階 区民会議室 | 20 | 12 | 10 | 1 | | 9 | 4 | | 24 | 120% | |
| 文京ミ・ライ対話 まちの資源を活かした地域ブランディング | 1月22日 | 水 | シビックセンター5階 区民会議室 | 25 | 13 | 11 | 3 | | 9 | 3 | | 26 | 104% | |
| 文京ミ・ライ対話 スポーツから始まるコミュニティづくり | 1月24日 | 金 | シビックセンター5階 区民会議室 | 25 | 7 | 5 | 3 | | 4 | 3 | | 15 | 60% | |
| 社会起業フェスタ2014 | 2月11日 | 火・祝 | 文京区民センター 3A・B | | | | 126 | | 1 | 4 | | 131 | - | |
| アクション・ラーニング講座 今後の事業化に向けて | 2月27日 | 木 | シビックセンター5階 区民会議室 | 20 | | | 13 | | | | | 13 | 65% | |
| 合計(NPO意見交換会を除く) | | | | - | 628 | 420 | 258 | 13 | 34 | 26 | 2 | 753 | - | |

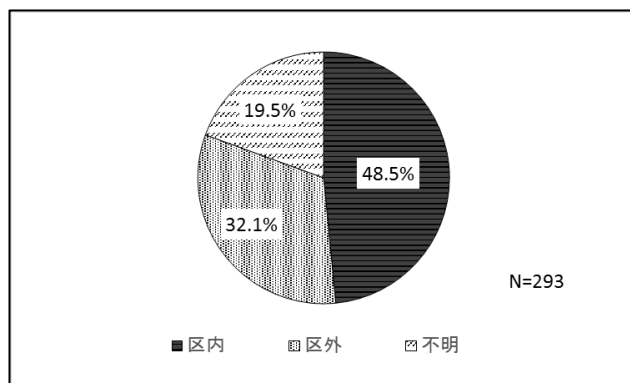
(2) 参加者属性

参加者の属性をみると、男性は54.9%、女性41.0%、また、区内区外では、区内48.5%、区外32.1%となっています。年齢別でみると、最も多いのが「30歳代」で全体の20.8%、次いで「40歳代」の16.7%となっています。属性分析として、特筆すべきことは、従来は、地域の担い手としては比較的、現役を引退したシルバー層や主婦層などが想定されることが多かったが、「30歳代」「40歳代」の行政や地域とのつながりが比較的薄いと考えられているいわゆる現役世代が多いことが特徴で、従来の層とは全く異なる層の参加がみられました。

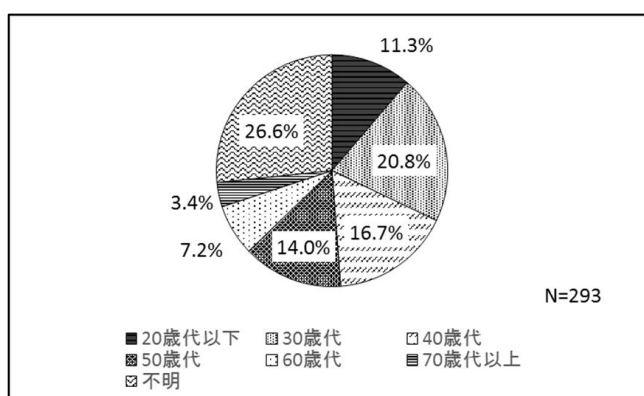
図表 全参加者男女別人数割合



図表 全参加者区内区外別人数割合



図表 全参加者年齢別人数割合



3. プロジェクトを通じて生まれた課題解決プロジェクト等

本プロジェクトにおいては、担い手の状況に応じたプロジェクト支援を実施し、アイデア段階も含めると 25 のプロジェクトが生まれました。

(1) プロジェクト支援

| |
|--|
| ■8月～11月期（継続力向上支援） ・文人郷（ぶんじんきょう）構築による地域連携事業（NPO 法人街 ing 本郷） |
| ■12月～3月期（継続力向上支援） ・ハッピーファミリープロジェクト（子育て kitchen） ・文京映画交流クラブ（文京映画交流クラブ） ※団体名は登録時から変更されている。 ・文人郷（ぶんじんきょう）構築による地域連携事業（NPO 法人街 ing 本郷）【継続】 |

(2) プロジェクト登録

◇7月期プロジェクト登録（登録数：5プロジェクト）

| |
|---|
| ■登録分類：事業段階（事業の継続の基盤ができ、動き始めている段階） ・地域ブランド「文人郷(ぶんじんきょう)」構築による地域連携事業（NPO 法人街 ing 本郷） |
| ■登録分類：構想段階（事業の継続の基盤づくりを進めている段階） なし |
| ■登録分類：アイデア段階（事業の企画が固まっている段階） ・子育て kitchen（子育て kitchen） ※ ・ご近所やさい（ご近所やさい） ・社会的就労文京プロジェクト（コミュニティ就労文京プロジェクト実施チーム） ※ ・文京アスリート大会（NPO 法人小石川） ※7月期登録の子育て kitchen、社会的就労文京プロジェクトは、10月期に内容を改訂して再登録されました。 |

◇10月期プロジェクト登録（登録数：7プロジェクト）

| |
|---|
| ■登録分類：事業化実践段階（事業の継続の基盤ができ、動き始めている段階） ・地域密着型介護・保育プロジェクト（(株) ツリー・アンド・ツリー） ・ハッピーファミリープロジェクト（子育て kitchen） ・文の京圏碁交流サロンプロジェクト（文京区碁碁指導者連絡会） ・文京映画交流クラブ（文京映画交流クラブ立ち上げチーム） ・コミュニティ就労文京プロジェクト（コミュニティ就労文京プロジェクト実施チーム） ・街の和文化の心・温故知新プロジェクト（keep-kimono-life 文京） ・武道（スポーツ）によるコミュニティ作り（TEAM 空） |
|---|

| |
|---|
| <p>■登録分類：アイデア段階（事業の企画が固まっている段階）</p> <p>なし</p> |
|---|

(3) 社会起業アクション・ラーニング講座受講生のプロジェクト

◇15プロジェクト（アイデア段階：6プロジェクト、試行段階：9プロジェクト）

| | | |
|----|---|--------|
| 1 | 文京区の再生としての事業 | アイデア段階 |
| 2 | 産地と消費者の美味しい関係づくりと商店街の活性化 | アイデア段階 |
| 3 | シェアすることにつながるコミュニティの場づくり | アイデア段階 |
| 4 | 休日のパパのコミュニティをつくる | アイデア段階 |
| 5 | 人の魅力を引き出す地域コーディネーターの育成 | アイデア段階 |
| 6 | 地域デビュー応援隊・・・街にタダ住む人だけの人の背中を一緒に押し ましょう | アイデア段階 |
| 7 | 思い出ラボ～高齢者の所蔵写真の収集を通じた人と街の記録の蓄積 | 試行段階 |
| 8 | HOLISTIC HEALTH ～自然と調和して健やかに生きる～ | 試行段階 |
| 9 | 文京かるたでつながろう～文京区の郷土かるたの製作及び普及による地 縁づくり | 試行段階 |
| 10 | 文京元気まつりプロジェクト | 試行段階 |
| 11 | 本郷いきぬき工房～大災害を生き抜く力と息抜く居場所・縁つむぎ | 試行段階 |
| 12 | 現役サラリーマンによるアフタースクール「実践塾」 | 試行段階 |
| 13 | 社会験学アフタースクール～子どもたちが会社の魅力を体験し、社会に 伝えます～ | 試行段階 |
| 14 | 兼業ママワークショップ&子育て情報事業 | 試行段階 |
| 15 | まちの暮らしを喜び・楽しむ「まちのLDK」@小石川 | 試行段階 |

※プロジェクト登録を行っている、(株) ツリー・アンド・ツリー、文京区囲碁指導者連絡会の各団体から参加している受講生のプロジェクトは含めていない。

Ⅲ. プロジェクトの成果

1. プロジェクトの評価軸の設定

本プロジェクトの一年の成果は、担い手創出に当たり重視した視点を踏まえ、次のような評価軸を設定しました。

【プロジェクトの評価軸】

- ① 行政などの既存の取組では対応しづらい地域課題に対して、新しいアプローチを生み出す・見出すことができたか。
- ② 地域課題解決に向けて、区民による自発的・主体的な取組が生まれたか。
- ③ 新たな課題解決型サービスを継続的に提供できる事業体は生まれたか。
- ④ 担い手の事業によって、どれだけの区民が受益者となれたか。
- ⑤ 本プロジェクトに幅広い区民が参加できたか。
- ⑥ 担い手を支え、共につくっていくコミュニティはできたか。
- ⑦ プロジェクト支援はプロジェクトの継続力向上に、どのように貢献できたか。
- ⑧ 新しい広報戦略の取組は効果を上げたか。
- ⑨ 区職員はどれくらい参加し、職員の意識はどのように変化したか。
- ⑩ 担い手を生み、育む仕組みができたか。

2. プロジェクトの評価

- ① 行政などの既存の取組では対応しづらい地域課題に対して、新しいアプローチを生み出す・見出すことができたか。

⇒本年度は、地域課題の解決プロジェクトとして一定レベルにあると判断されたプロジェクトとして、プロジェクト登録や社会起業アクション・ラーニング講座のプロジェクトが 25 生まれまるなど、後にプロジェクト支援のレベルまで発展する可能性のあるプロジェクトも見出されたことから一定の成果があったものと評価できます。

◇今年度生まれたプロジェクトの数 (プロジェクト登録、社会起業アクション・ラーニング講座)

⇒ ・プロジェクト登録 10 プロジェクト

(8 月期 5 プロジェクト、10 月期 7 プロジェクト (うち再登録 2))

・アクション・ラーニング講座から生まれたプロジェクト 15 プロジェクト

(試行段階 9 プロジェクト、アイデア段階 6 プロジェクト)

◇区から提示した重点テーマ（区だけでは取り組むのが難しい課題）に対して、文京ミ・ラ・イ対話の中で出された解決策のアイデア

- ⇒ ・ミ・ラ・イ対話第2セッションで出された解決策のアイデア **61個**
・ミ・ラ・イ対話第3セッションで出された参加者のアクション **32アクション**

② 地域課題解決に向けて、区民による自発的・主体的な取組が生まれたか。

⇒プロジェクト登録や社会起業アクション・ラーニング講座のエントリー数、登録説明会参加者数等の実績から、自らのアイデアやプロジェクトを持つ層に数多くリーチできたと言えます。また、その中から試行的な取組も生まれている状況もあり、一定の成果があったものと評価できます。

◇住民の自発的・主体的な取組を促進する活動

○地域活動応援講座への参加者

- ⇒ 「ファシリテーション講座」(9/26) **参加者 47人**
「参加者が満足するプロジェクト運営のコツ」(10/10) **参加者 41人**

○プロジェクト登録・社会起業アクション・ラーニングのエントリー数、登録説明会参加者数
⇒

- ・プロジェクト登録エントリー数 **16**（7月期 7団体、10月期 9団体）
- ・社会起業アクション・ラーニング講座エントリー数 **25人**
- ・プロジェクト登録説明会（9/18、9/27） **16人**

◇アンケートにおいて、「新しい活動を始めたい」という回答をした人の割合

○キックオフイベント「Yesで文京の未来を語ろう」(5/26) 参加者アンケート (N=49)

- ・「対話の場」に参加したい人 **55.1%**
- ・「新事業立ち上げや既存活動の活性化のプログラム」に参加したい人 **26.5%**
- ・「社会起業家育成講座」に参加したい人 **22.4%**

○ソーシャルイノベーション公開シンポジウム「社会の変化は、新しい仕事を求めている！」
(9/13) 参加者アンケート (N=86)

- ・「何か活動をしたい人」と回答した人 **51.2%**
- ・「社会起業アクション・ラーニング講座」に参加したい人 **60.5%**

③ 新たな課題解決型サービスを継続的に提供できる事業体は生まれたか。

⇒プロジェクト支援は、3プロジェクトあり、これらのプロジェクトは未熟な部分が多く十分ではないが、支援を受けたことにより、継続的なサービスが提供できる担い手としての成長に一定の成果があったと言えます。また、社会起業アクション・ラーニング講座では、ゼロに近いアイデアを事業体として展開できる可能性がつくまで導いたものもあり、次へつながる支援が行えたことから一定の成果があったものと評価できます。

◇プロジェクト支援のプロジェクト数

⇒ 3プロジェクト（継続力向上支援 3）

8月～11月期プロジェクト支援1

12月～3月期プロジェクト支援3（うち1は継続支援）

◇社会起業アクション・ラーニング講座者で活動プランを発表した数

⇒・試行段階 9プロジェクト、アイデア段階 6プロジェクト

・受講生のうちプロジェクト登録のある2プロジェクトはブラッシュアップを支援

④ 担い手の事業によって、どれだけの区民が受益者となれたか。

⇒受益者の拡大については、実際に既に実践されているプロジェクト支援の実施事業や、社会起業アクション・ラーニング講座受講生の試行な取組における事業への参加者数や、利用者数といったデータを基に評価します。

◇支援プロジェクトの実施事業の参加者数・利用者数

⇒（調査中：プロジェクト支援実行中のため）

◇社会起業アクション・ラーニング講座者の活動への参加者数

⇒（調査中：活動中のものもあるため）

⑤ 本プロジェクトに幅広い区民が参加できたか。

⇒イベントの等の延べ参加者及びイベント参加のユニーク数の実績では、地域課題解決に関心のある層約300人にアプローチができ、また、イベント等のリピート率では、実際の講座等の参加者の受講動機等から、単に興味のあるだけではなく、ある程度のやる気がある人がリピートしていると考えられることから、地域活動に興味のある層へアプローチに、一定程度の成果があったものと評価できます。

◇本プロジェクトへののべ参加者数、ユニーク数（同一人を重複カウントしない数）

⇒ イベント等のべ参加者 753人

イベント等参加ユニーク数 293人（文京社会起業フェスタ除く）

◇リピート参加率

⇒ 2回以上イベント等に参加した人の割合 24.5%（平均参加回数 1.3回）

◇年齢構成

⇒ イベント等参加者ユニーク数で見ると、参加者数の半数以上が男性

30歳代 20.8%

40歳代 16.7%

（従来の地域活動の主流である主婦層、シルバー層とは異なる参加者層にリーチできている）

⑥ 担い手を支え、共につくっていくコミュニティはできたか。

⇒文京社会起業フェスタや文京ミ・ラ・イ対話の参加者実績等から、担い手と地域の人が直接交流する基盤づくりの第一歩として成果があったと言えます。また、本プロジェクトに関わった外部専門家等の協力者が、今後、担い手のサポーターの役割を果たすことも想定され、担い手を支えるコミュニティづくりに一定の貢献があったものと評価できます。

◇文京社会起業フェスタ（担い手と区民が出会う場）の参加者の状況

⇒ 参加者は、131人

- ・各ブースにおいて、質問及びディスカッションする様子が散見された
- ・「いいね！シール」の貼り付けによる共感度の見える化がされた（20以上の共感者を得るプロジェクトも散見された。）

◇文京ミ・ラ・イ対話第3セッション（担い手の提案するテーマでの対話）の参加者の状況

⇒ 第3セッションのべ参加者数は、65人

- ・各回で、プロジェクト登録者・社会起業アクション・ラーニング講座受講生と参加者が講座終了後もディスカッションやコラボレーションを探る姿勢がみられた

◇ゲスト講師、メンターなどで関わった外部協力者

⇒ 団体代表者や専門家など 37人

⑦ プロジェクト支援はプロジェクトの継続力向上に、どのように貢献できたか。

⇒各々のプロジェクトの事業構築支援のプロセスにおいて、継続的に事業展開するに当たっての課題整理を丁寧に行ったことにより、団体の成長も見られ、今後の継続力に期待が持てたことから、プロジェクトの継続力向上に一定の貢献があったものと評価できます。

◇プロジェクト支援によって生み出されたこと

本年度、3件のプロジェクト支援を行う中で、各プロジェクトは、下記の取組を新たに始めることになった。(支援中のため予定を含む。)

○文人郷プロジェクト (NPO法人 街ing 本郷)

- ・文人郷会議 (ステークホルダーミーティング)

地域住民にとっての文人郷の意義を、住民と共に考える場の企画・運営支援。住民と共に企画する取り組み方のモデルとして、企画、運営を支援した。

- ・文人郷カフェ、文人郷談義の開催

地域住民の参加機会を広げるイベントの企画支援

- ・文人郷冊子作成

本郷の住民や関心ある人に、文人郷の取組を紹介し、会員としての参加を促す。運営側からのアピールよりチラシではなく、住む人の関心事から始まるように、冊子の構成を外部視点から共に考える。

<支援が団体に与えた影響>

本プロジェクトは、中心メンバー2名が企画・運営を担っていることで、企画・イベントが単発的になり、また周囲との多面的なコミュニケーションも不足していることによって、活動があっても軸となる事業が曖昧になりがちで、プロジェクトの継続性に課題があった。周囲との関係構築を支援することで、継続力の基盤づくりに取り組んだ。

○ハッピーファミリープロジェクト (子育て kitchen)

- ・地域課題を明確にするアンケートの実施

子育て kitchen の社会的意義を明確にするために、事業の扱う課題と課題解決アプローチのユニークな点を明確にし、アンケート票の開発、集計をサポートした。

- ・事業運営の特徴の整理

子育て kitchen の強み、ユニークな点を明確にし、スタッフの充実や取り組む人を増やすために、事業運営の特徴の整理を行った。

<支援が団体に与えた影響>

「子どもが主体につくる料理」のワークショップは継続的に実施されており、参加者には支持されていたが、事業の社会的意義、生み出したい成果を明確にできていなかったために、支援者の広がりに限られ、行政との協働もできていない状況にあった。そこで、社会的意義と成果を定義し、成果を生み出すプロセスにおける特徴を明確にする支援を行った。

○文京映画交流クラブ（文京映画交流クラブ）

・目標の整理

映画交流クラブとして展開の多様なアイデアがあったが、その第一歩として身近な地域での映画上映会に焦点を当て、取り組むこととした。

・活動の整理

今後、地域に根付かせるために必要な活動について整理を行った。

<支援が団体に与えた影響>

リーダーの個人力で行われていた活動を、団体のメンバーや地域住民が支え、共につくる活動としていくために、目標の焦点を絞り、活動の進め方を整理する支援を行った。

⑧ 新しい広報戦略の取組は効果を上げたか。

⇒特設サイトや、SNS 等の多様な広報媒体の活用により、これまでの行政のやり方ではリーチできなかったと考えられる層にも、広く情報を届けることができたと言えます。また、本プロジェクトに関わっている人の顔が見える広報にも力を入れたことで、facebook の「いいね」に代表される閲覧者の共感も着実に伸びていることから、一定の成果があったものと評価できます。

◇メルマガ登録者数

⇒ 513人 (3/17 現在)

◇facebook の「いいね」数（共感、支持者の数）

⇒ 380 (3/17 日時点)

◇facebook 投稿記事の最大リーチ数（記事を読んだ人の数）

⇒ 1,478 (3/17 日時点)

◇CATV での動画配信

⇒ 以下、計4回取り上げられた

- ・キックオフイベント「Yes！で文京の未来を語ろう！」(6/3～)
- ・文京ミ・ラ・イ対話 第1セッション「地域課題を知る」(7/15～)
- ・「新たな公共プロジェクト この1年」(1/27～)
- ・「文京社会起業フェスタ」(2/17～)

⑨ 区職員はどれくらい参加し、職員の意識はどのように変化したか。

⇒本プロジェクトでは、全庁的な取組に注力し、文京ミ・ラ・イ対話への職員の参加や拡充された協働推進に関する研修の受講により、担い手創出の大切さや、これまでの考え方の転換の必要性などに対する気づきが得られたとの意見も見られたことから、職員の意識改革に一定の成果があったものと評価できます。

◇参加職員数

⇒ 対話の場等のイベントへの参加 **延べ 26人**

「協働」に関する研修参加者数 **延べ 325人**

※その他、支援プロジェクト選考及びキックオフミーティング等において適宜関係部署の職員参加あり。また、組織横断的協働を推進する「協働推進委員会」が設置されている。

◇職員の意識の変化（研修参加者アンケートより）

1) 「新たな公共の担い手との協働推進研修」（全職員対象 参加者 40人）

<参加者アンケート>

- ・区民ニーズが多様化する中、よりきめ細かな区民サービスを展開していくためには、「新たな公共の担い手との協働」を推進していくことが不可欠である。そのためには、今回の研修などで「区政運営は区が中心に実施していく」という区側の考え方を変革していかなければならないと思う。
- ・行政で行っている事業について、利益が生まれるような工夫をして民間でできるようにすることは大変難しいと感じていたが、地域活動の様々な事例を知ることができて興味深かった。

2) 新任研修「協働」（新任職員対象 参加者 延べ170人）

<参加者アンケート>

- ・区における、これまでの協働推進やこれからの方向性について知ることができ、今後の職務において協働をより意識できるのではないかと感じた。
- ・熱意を持った区民の気持ちを職員としてどれだけ受け止められるだろうか。職員としても組織としても柔軟性が求められ、区民感覚から事業を問い直す姿勢が求められていると感じた。

3) NPO等地域団体派遣研修（入区3年目の職員対象 参加者 57人）

<参加者アンケート>

- ・区が提供できるサービスには限界があると思うので、区民が充実した生活を送るためには、NPOと協働していくことが大事であると感じた。
- ・地域支援活動の大切さ、地域の方とのつながりの大切さを学ぶことができたので、今後もその姿勢を大切にしていきたいと思う。

4) 協働研修（基礎編）（入区5年目の職員対象 43人）

<参加者アンケート>

- ・協働するために必要である「目的共有」や「組織内の連携」、「ニーズの確認」ということは協働だけではなく日々の事務においても大切なことだと思うので、意識して心がけていきたい。
- ・今までは「協働」という言葉に対してとても堅いイメージを持っていたが、研修を受講したことで自分にもできる「協働」があるのではないかと思った。

5) 協働研修（応用編）（係長職昇任3年目の職員対象 15人）

<参加者アンケート>

- ・区の立場では簡単に民間との協働を提起しがちであるが、相手側の人員体制や採算性を考慮しつつ進めていくことが大切だと思う。
- ・研修の中で自身が新規事業案を企画するにあたり、安定した収益をあげつつ、社会的利益を確保することの難しさを経験し、決して個人のひらめきや志だけで成し遂げられるものではないということも痛感させられた。ただ、区職員の視点とは異なる切り口で、社会問題にアプローチしたこと自体は新鮮であったし、問題解決の手法の一つとなりうることは理解できた。

⑩ 担い手を生み、育む仕組みができたか。

⇒担い手創出のための仕掛けとして、担い手の参加ステージに応じた各プログラムを企画し、それらを体系化して運営できたことから、担い手を生み、育む仕組みづくりに一定の成果があったものと評価できます。

◇文京ミ・ラ・イ対話

- ・「地域課題を知る（区の課題認識をヒントに地域課題を知る） → 解決策を考える（他地区の実践者の事例から解決策を考える） → 解決策を深める（プロジェクト支援団体等の課題提案者から出されたテーマから解決策を深める）」の3つのステップを踏むことで、区民が参加しやすく、既に活動を始めている担い手にも気づきがある対話を行った。

◇社会起業アクション・ラーニング講座

- ・公開シンポジウム、地域活動応援講座との相乗効果もあり、定員を超える応募があった。
- ・社会起業アクション・ラーニング講座は、20人と少人数の講座で行ったが、受講生は個別アドバイスを得られたことでプランづくりが進んだ。また、講座外でも受講生同士が連携して区民向け講座を実施する活動が見られた。
- ・受講生は、講座だけでなく、メンターミーティングや文京ミ・ラ・イ対話、社会起業フェスタへ参加することを通じて、地域の人や専門家とつながる機会できたことで、事業づくりに向けた成長がうかがえた。

◇文京社会起業フェスタ

- ・支援プロジェクト、登録プロジェクト、社会起業アクション・ラーニング講座受講生が一堂に会し、事業プランの発表と参加者との交流の組み合わせでイベントを開催し、期待していた仲間づくりの効果も見られ、地域の人が担い手を知るきっかけにもなった。

◇プロジェクト登録

- ・プロジェクト登録については、地域課題の現状把握と課題解決のためのアプローチ方法を区民が一覧できるように「登録シートのフォーマット」を整備した。
- ・プロジェクト登録されたプロジェクトは、特設サイトでのPRや、ミ・ラ・イ対話、社会起業フェスタでの発表等を通じて地域の協力者を得るきっかけとなった。

◇プロジェクト支援

- ・プロジェクト支援は、4か月を1クールとした期間を設定し、各プロジェクトの状況に応じたきめ細かな支援を行ったことにより、担い手としての成長がうかがえた。

IV. 今後のプロジェクト実施に向けて

本年度の実施結果と成果を踏まえ、次年度以降に向けた主な課題と改善案をまとめます。

【主な課題と改善案】

- プロジェクト支援は、「継続力向上」と「展開力向上」の支援区分を設けていますが、事業モデルが安定的に運営できている団体を対象にした「展開力向上」支援の区分に該当するような団体のプロジェクト登録への参加はありませんでした。今後は、本プロジェクトの取組について、区内外の団体に積極的にアプローチするなどして、当初から課題解決のインパクトが期待できる団体の参加を促していきます。
- プロジェクト支援は、4か月を1クールとして支援してきましたが、選考の際に本部から指摘された事項等を反映した、事業計画を固めるまでに、支援期間の半分程度を使ってしまっている状況にあります。今後は、プロジェクト登録から選考までの期間中の事業計画のブラッシュアップに対する支援を強化する方策を検討していきます。
- プロジェクト登録をした団体については、登録後、継続して情報交換をする仕組みがなく、団体と事務局間の意思疎通が十分とは言えませんでした。今後は、登録団体と事務局が入るメーリングリストの運営等により、継続的な情報交換に努め、各プログラムへの参加を促していきます。
- 社会起業アクション・ラーニング講座で講師を務めたSVP東京の岡本さんは、SVP東京は海外の事例を日本に合うように改良して立ち上げたと話されていました。自分の思いを整理し、ゼロから事業をつくっていくことも大事ですが、その実現には多くの時間を要します。「何かしたい」と思っている人の事業づくりを促進させる方法として、今後は、既存活動の型を学び自身の事業づくりに活かすといったことを強化した講座についても実施していきます。
- 広報面では、積極的な戦略が功を奏し一定の成果が上がりましたが、より多くの区民に本プログラムの実施をPRし参加を促していくには、十分とは言えません。今後は、これまでの参加者に協力を得られるようなPR方法や、SNSでシェアされやすい情報の掲載方法の検討などにより、広報戦略のさらなる強化も図っていきます。